


|            |  |      |     |   |
|------------|--|------|-----|---|
| ふりがな<br>氏名 | やすだ ゆうか  | 都道府県 | 東京都 |  |
|            | <b>安田 侑加</b>                                       |      |     |   |
| 所属/肩書      | 聖心女子大学文学部英語英文学科                                    |      |     |   |
| 私のESD活動    | 学内外様々な機会を積極的に利用した ESD の学びと、スタディツアーにおける環境問題のワークショップ |      |     |   |

## 活動の概要

大学の発展途上国における教育問題を扱う授業の一環で、スリランカの学校の3歳から14歳の子どもたちを対象に、環境問題のワークショップを実施した。現地では、道路脇などにゴミのポイ捨てが目立っていた。そこで、まず周辺環境に目を向けることを目的に、ゴミ拾い散歩を行った。次に、ゴミの分別と資源の使い方を可視化するため、ゴミ箱作りを行った。この際、現地の分別方法に合わせ、Organic, Paper, Plasticの3種類を作った。続いて、集めたゴミを先述の3種類に分けて置き、ゴミが発生した原因、ゴミを減らす方法などを話し合った上で、最後に作ったゴミ箱に分別したゴミを入れた。意識したことは、好きな食べ物を尋ねる質問でさえも、教師が答えを指定し、子どもたちも指示を待っている、というスリランカの受動的な教育文化の中で、子どもたちの自主性を尊重することだ。ゴミ箱作りの際、自由に絵を描けるよう、カードを使った分別ゲームで、先生チームと子どもチームを対抗させ、互いの独立を図った。その後、先述のカードをゴミ箱周辺に散らし、子どもたちが絵を描く際のヒントになるよう工夫した。その結果、カードを参考にゴミ箱の種類を明確にした上、色鮮やかな装飾や、ダイオキシンの悩む様子を表現した泣き顔の絵など、子どもたちの豊かな感性が反映されたゴミ箱が完成した。自らの手で作り上げたゴミ箱を、スタディツアー終了後も子どもたちが使用していたことは最大の成果であったと思う。

○「スリランカスタディツアー報告書」 <http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/report/files/160912jpn.pdf>

## 今後の活動や協働への展望

スタディツアーは発展途上国における教育プログラムであったが、私は将来日本のESDの拡充に携わりたいと考えている。そのため、今後ESDを探求していく上で、先述の通り、新たに、そして継続的に国内のESD活動を始めたい。また、将来に関して、具体的には学校とESDをつなげる橋渡しの役割として、ESDに基づく学校づくりに携わりたいと考えている。学生の間から現場に足を運び、生の活動を見、声を聞き、現場に関する情報を吸収していきたい。そこで、引き続きESDの実践校を見学することに加え、講師派遣など、学校外から学校内のESDに携わる活動側の視点からも、学校におけるESDの実践例に注目していきたい。さらに、様々な分野でESDに取り組まれている方々と継続的に関わり、自分にとってのESDを深めると共に、その活動や想いを伝えることで、周りのESDの認知を高めることにつなげたい。